

ニューズレター 2024 年度第 1 号

日本音楽表現学会 2024 年 7 月 31 日発行

日本音楽表現学会 第 22 回 (バッカスの宴) 大会特集

目 次

【ご挨拶】10 年先を見据えた持続可能なシステム構築に向けて	藤原 嘉文	2
日本音楽表現学会 2024 年度総会報告 (議事録)		3
大会スナップ		12
第 22 回「バッカスの宴」大会参加者の声		14
	新海 節 久保田葉子	
	水野 亜歴 二宮英美歌	
	中畑 淳 竹下可奈子	
	神部 智 高沢 学	
	田中 慈子 人見 厚子	
第 2 回助成コンサート公募 !!		16
新入会員紹介		17
後援コンサート情報		19
事務局からの重要なお知らせとお願い		20
日本音楽表現学会第 23 回大会のご案内		24
2024 年度役員・委員等一覧		24
編集後記		24

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000 円 (2025 年度より 7,000 円)

振込先：A) 郵便局振込用紙利用 01370 - 6 = 78225 日本音楽表現学会

B) ゆうちょ銀行へ振込 いちざんきゆう 一三九 (139) 店 (当座) 0078225 日本音楽表現学会

10 年先を見据えた持続可能なシステム構築に向けて

日本音楽表現学会会長 藤原 嘉文（作曲）

学会員有志による合唱「酒を造る里の物語」で華やかに開会した「バッカスの宴」大会。去る6月23日～24日に山梨大学で行われた第22回大会にはたくさんの方にお越しいただきました。大会愛称に因んだ数々の講演や企画。サロンや分科会での「知」の交換。そして、ずらりと並んだボトルの数々を前に大いに盛り上がった情報交換会。旧知の方同士は勿論、新しい出会いに会話が弾み、閉会しても立ち去り難い方が多く、なかなか片付けが進まないという実行委員の嬉しい悲鳴もありましたが、5年ぶりのフルスペックでの大会は、盛会裡に幕を閉じました。これも皆様のご協力の賜物と感謝しております。

その総会におきまして会長を拝命しました藤原です。皆様のお力添えをいただきながら学会のさらなる発展のために微力を尽くしたいと思います。どうか、よろしくお願い致します。

さて、大会の情報交換会での乾杯の際、初代会長の中村隆夫さんから本学会設立当初のお話がありました。全くゼロからのスタートに際し、設立準備委員の方々を中心に何年か分の年会費を前納されて動き出したこと。学閥や師弟関係などの上下を廃し、それぞれが同じ学会員として自由にもの言えるように、呼称を「先生」ではなく「さん」にしたこと。お互いに『顔の見える学会』であることなど、当時の熱い想いが語られました。近年会員になられた方にとっては、学会の歴史の一端を垣間見ることができた貴重な機会ではなかったでしょうか。

それから22年。今や600人を超す大きな学会に成長しました。この大所帯で実際にお一人お一人の『顔の見える学会』は不可能といえるかも知れません。しかしそのような設立当初の思いを大切にしながら、これからの時代に合わせて改革していくことは大切です。

お互いのやっていること、感じていること、言いたいことがわかる学会。『思いが通じあう学会』『内容が見える学会』とでも言いましょうか。新しい時代に相応しい、より開かれた学会を目指して、一步一步進んでいければと思います。「先生」ではなく「さん」で呼び合うことも、本学会の本質を表す大切な事項の一つです。是非引き継いでいきましょう。

ところで、『内容が見える学会』という点においては、実際に大会に参加し、直に発表を聞き意見交換などを行い、総会

にも出席することができれば最高です。しかし、諸事情で参加できない方もいらっしゃると思います。また、参加しても、例えば分科会は6～8室同時開催であることから希望する全ての研究発表を聞けない場合も少なくありません。そのために学会誌『音楽表現学』では「大会報告」として基調講演に始まる全体会の内容、各分科会の報告などを詳細に掲載しております。学会誌の最大の使命は論文を世に問うことですが、それに匹敵するほど充実した大会報告を詳細に掲載すること、これも本学会の伝統とも言うべきことの一つです。参加できなかった会員にとっても、大会の内容が少しでも鮮明に伝わるようにという思いから、レイアウトの工夫も含め、よりわかり易い紙面になるように努めています。全体会の講演者の方にも詳細な報告書をまとめていただき、分科会の発表者や司会の方々、サロンのファシリテーターの方々にも大会報告をお寄せいただき、ありがたく存じます。

ただ、大きな学会に成長したことで、運営上の困難も顕著になっています。例えば、上述の『音楽表現学』。論文の掲載決定に至る過程は編集委員会の献身的な努力によって進められますが、大会報告の膨大なファイルも含めた実際の紙面編集やレイアウト、校正作業などは、事務局やデザイン室の役員、スタッフの手作業で行っています。掲載原稿の理解に不可欠な譜例や特殊なグラフなどの処理もあり、全てを業者に委ねることは難しいからです。それだけではなく、学会の入退会を含む管理運営、財務なども含め、役員・委員の業務量も増える一方です。仕事の合間に行う運営業務としては既に限界を超えており、働き方改革（ボランティアですが）が必須です。幸い先日の総会において、来年度からの年会費の値上げが認められました。ありがとうございます。郵便などの通信費をはじめとする各種値上がりに対応すると同時に、事務局などの業務軽減のために有料スタッフの追加配置などを検討させていただきます。それと同時に、情報管理システムの導入をはじめとする電子化の検討も含め、10年先を見据えた持続可能なシステムの構築に向けて動き出さなければなりません。

改革には皆様のご理解とご協力が不可欠です。これまでの伝統を大切にしながら、新しい時代の『思いが通じあう』『内容が見える』自由で楽しい学会を目指して共に進んでいきましょう。

日本音楽表現学会 2024 年度総会報告 (日本音楽表現学会 2024 年度総会議事録)

日時：2024 年 6 月 22 日 (土) 15:40 ～ 16:50

場所：山梨大学 M12 講義室

0. 総会定足数：出席者 55 名、委任状 241 通、合計 296 名分（定足数 121）にて総会は成立した。
1. 開会の辞：宮本賢二郎事務局担当理事から開会が告げられ、小西潤子会長から開会の挨拶がなされた。
2. 議長・記録選出：議長に木下千代会員（ピアノ）、記録に鈴木慎一朗会員（音楽教育学）が選出された。
3. 報告

1) 2023 年度事業報告

杉江淑子事務局長から【資料 1】に基づき説明があり、異議なく了承された。

【資料 1】

第 21 回 (平安) 大会 2023 年度総会	2023.06.17 (土) -18 (日)	
理事会 (定例)	第 1 回	2023.06.17 (土) 15:05-16:30
	第 2 回	2023.12.17 (日) 13:00-17:30
	第 3 回	2024.03.30 (土) 10:30-17:00
	第 4 回	2024.06.21 (金) 16:00-17:30
	その他	電子媒体による持ち回り会議
編集委員会	第 1 回	2023.05.26 (金) オンライン開催 (書類審査・査読者と担当)
	第 2 回	2023.07.29 (土) オンライン開催 (第 1 次査読審査)
	第 3 回	2023.09.08 (金) オンライン開催 (第 2 次査読審査・採否決定)
	その他	電子媒体による持ち回り会議
助成コンサート委員会	第 1 回	2023.08.27 (日) オンライン開催 (募集要項と申請方法など懸案)
	第 2 回	2024.01.10 (水) オンライン開催 (選考委員と担当及び報告書書式策定)
	第 3 回	2024.03.11 (月) オンライン開催 (最終選考)
	その他	電子媒体による持ち回り会議
選挙管理委員会	第 1 回	2023.6 月中 電子媒体による持ち回り会議 選挙日程等確認
	第 2 回	2024.02.13 (火) 公示文書確認・発送 於：学会事務局
	第 3 回	2024.03.20 (水) 開票・会長へ報告 於：学会事務局
『音楽表現学』Vol.21 発行		2023.11.30 (木)
ニューズレター発行	No. 1	2023.07.31 (月)
	No. 2	2023.11.30 (木)
	No. 3	2024.03.31 (日)
「バックスの宴大会」	チラシ発送	2024.04.05 (金)
	『大会要項』発行	2024.04.30 (火)
財務局	会計監査	2024.5 月～ 6 月
後援 22 件		

2) 2024-25 年度会長・理事選挙結果報告

岡ひろみ選挙管理委員から【資料 2】に基づいて報告があり、異議なく承認された。

【資料 2】

日本音楽表現学会会長 小西 潤子 様	2024 年 3 月 20 日
	2024-25 年度選挙管理委員会
	委員長 牛渡 克之
	委員 岡 ひろみ
	佐藤 薫
2024-25 年度選挙管理委員会では「2024-25 年度会長・理事選挙」の開票を 2024 年 3 月 20 日 (水・祝) に本学会事務所において行いました。その結果を報告いたします。	
記	



1. 有権者数 607 名	役職名	候補者氏名	得票数	信任の可否
2. 投票者総数 255 名	会長	藤原 嘉文	プ	○
3. 有効投票用紙 255 枚	理事	石原 慎司	ラ	○
4. 無効票用紙 0 枚	理事	大竹 紀子	イ	○
5. 有効投票用紙における各候補者の得票数 右表の通り	理事	小川 有紀	バ	○
6. 最低信任数 投票数の 1/2 = 128 票	理事	豊田 典子	シ	○
7. 信任の可否 全候補者それぞれの得票数が、信任に必要な最低数、128 票を超えているので、全員が信任されたと見なされる。	理事	深井 尚子	ーに付き	○
	理事	三島 郁	削除	○
	理事	宮本賢二郎		○
	理事	吉田 秀文		○

3) 第 21 回 (平安) 大会決算報告

小川有紀財務局担当理事から【資料 3】に基づき、第 21 回 (平安) 大会決算報告について説明があった。杉山雄一会員 (ヴィオラ) から収入の決算の合計の記載について質問があり、収入の決算の合計を 1,895,307 円に修正を行うことで承認された。

【資料 3】

【収入】	費 目	決 算	予 算	備 考
	大会参加費	1,254,500	1,170,000	参加費 6,000 円 × 174 名 = 1,044,000 非会員 3,500 円 (1 日参加) × 59 名 (延べ) = 206,500 学 生 1,000 円 (1 日参加) × 4 (延べ) = 4,000
	広告掲載料	550,000	310,000	50,000 円 × 1 + 30,000 円 × 5 + 20,000 円 × 14 + 10,000 円 × 7)
	『大会要項』販売	7,000	5,000	500 円 × 14 部
	コンベンションビューロ支援費	0	218,000	
	参加者弁当代	82,800	-	弁当代 900 円 × 92 食
	雑収入	1,007	0	寄付金と利息
	小 計	1,895,307	1,703,000	
	一般会計より補填	0	0	
	合 計	1,895,307	1,703,000	

【支出】	費目	決算	予算	備考
	基調講演講師謝礼	100,000	100,000	
	レクチャー出演謝礼	0	0	会員につき 0 円
	オープニング演奏経費	20,000	10,000	坂本光太氏・黒田義道氏謝金 (実行委)
	特別公演出演謝礼	170,000	150,000	文楽
	サロン経費	0	0	
	学生アルバイト謝金・交通費補助	416,280	300,000	役務費 = 1,250 円 (1h) アルバイト = 1,000 円 (1h) 協力スタッフ 3 名、学生 15 名 (事前準備・当日・事後も含む)
	アルバイト昼食代	0	20,000	決算では大会事業経費の項目に組み入れ
	施設・設備関係料	57,200	100,000	施設使用料、ピアノ調律等
	『大会要項』等編集・印刷費	507,724	600,000	チラシ、大会要項など
	大会事業経費	122,570	164,000	大会本部経費、役務費等、事務局スタッフ・参事宿泊費、収録・編集作業費、アルバイト弁当代など
	参加者弁当代	82,800	-	弁当代 900 円 × 92 食
	会議費	0	43,000	会場費、お茶代など
	通信発送費	119,289	80,000	『大会要項』等発送費ほか
	旅費交通費	29,890	120,000	実行委員会費、撮影隊交通費、表敬訪問費など
	スタッフ・ポロシャツ・クリーニング	28,380	0	対面の大会のため支出
	消耗品費	118,216	10,000	消毒液 (会場用)、荷造り紐、クラフトテープ、セロテープ、マスク、SD カード、ほか文具
	振込手数料	2,135	3,000	
	雑費	916	3,000	
	小 計	1,775,400	1,703,000	
	一般会計へ繰越	119,907	0	
	合 計	1,895,307	1,703,000	

情報交換会：開催せず

4) 2023 年度一般会計報告・監査報告

寺内大輔財務局長から【資料 4】に基づき、2023 年度一般会計報告の説明があった。渡会純一監事から、監査結果報告があり、異議なく承認された。

【収入】	費 目	決 算	2023 年度予算	2022 年度決算	備 考
	2023 年度会費	2,750,000	3,000,000	2,980,000	5000 円 × 550 名分
	学会誌売上	67,560	30,000	25,720	3,500 円 × 7 冊 + 3,000 円 × 10 冊 + 2500 円 × 3 冊 + 送料 5,560 円
	論文執筆のしおり売上	34,580	6,000	1,540	400 円 × 83 冊 + 送料 1,380 円
	利息	26	0	20	ゆうちょ 2 冊（一般＋大会）
	大会会計から繰り入れ	119,907	0	-	
	雑収入	-	0	28,360	
	小 計	2,972,073	3,036,000	3,035,640	
	前年度繰越金	4,908,414	4,908,414	4,144,090	
	合 計	7,880,487	7,944,414	7,179,730	

【支出】	費 目	決 算	2023 年度予算	2022 年度決算	備 考
	『音楽表現学』Vol.21 印刷費等	777,700	850,000	792,000	
	査読謝礼・英文題目校閲	11,200	30,000	11,200	
	ニューズレター No.1 ～ No.3 印刷費等	134,377	150,000	120,102	No.1, No.2, No.3
	名簿（偶数年度発行）作成・印刷費	81,088	120,000	-	原則偶数年度発行だが、2022 年度は発行時期が遅れたため、2023 年度に執行
	『論文執筆のしおり』印刷費	35,491	0	-	予期せぬ大量注文があったため増刷
	理事会 会場費	8,491	60,000	9,241	
	交通費	428,974	500,000	397,800	
	編集委員会 会場費	-	40,000	-	Zoom 開催のため支出ゼロ
	交通費	-	300,000	-	Zoom 開催のため支出ゼロ
	選挙管理委員会 会場費	3,200	5,000	-	
	交通費	5,560	5,000	-	
	印刷費	-	40,000	-	
	通信発送費	110,372	120,000	-	返信用切手代込み
	役務費：発送作業	-	15,000	-	選挙管理委員による作業のため支出ゼロ
	事務局費 会場費	7,200	5,000	7,220	
	交通費	1,980	50,000	1,980	
	通信発送費	345,394	350,000	265,666	NL 発送、チャット・Zoom 使用料含む
	事務用品費	365,065	290,000	44,584	封筒、用紙など。予算を大幅にオーバーしたのは、事務局 HD が故障し復旧費用が生じたため。
	役務費・発送作用	382,550	240,000	211,910	各種文書作成、校正、HP 更新など 予算を大幅にオーバーしたのは、スタッフの仕事量が増え、人件費が増加したため。
	財務局費 財務関係役務	83,750	70,000	29,000	
	学会基金積立	300,000	300,000	300,000	
	払込手数料	4,752	5,000	1,584	
	雑費	2,420	30,000	3,639	
	大会補助	-	0	75,390	
	予備費	-	10,000	-	
	小 計	3,089,564	3,585,000	2,271,316	
	次年度繰越金	4,790,923	4,359,414	4,908,414	
	合 計	7,880,487	7,944,414	7,179,730	

学会基金

【収入】	費 目	決 算	2023 年度予算	2022 年度決算	備 考
	2024 年度学会基金	300,000	300,000	300,000	
	『音楽表現学のフィールド 1,2』 売上	6,740	15,000	3,370	2 冊
	利息	46	0	44	三井住友
	小計	306,786	315,000	303,414	
	前年度繰越金	5,502,118	5,502,118	5,204,979	
	合計	5,808,904	5,817,118	5,508,393	

【支出】	費 目	決算	2023 年度予算	2022 年度決算	備 考
	『音楽表現学』 バックナンバー電子化	13,500	10,000	6,000	j-stage への掲載
	予備費（学会創立 20 周年記念関連準備）	-	-	-	
	学会 20 周年記念（論文要旨校閲）	16,800	100,000	-	
	学会 20 周年記念（コンサート企画）	-	200,000	-	
	会員情報管理システム構築	-	100,000	-	
	払込手数料	550	2,000	275	
	小 計	30,850	412,000	6,275	
	次年度繰越金	5,778,054	5,405,118	5,502,118	
	合 計	5,808,904	5,817,118	5,508,393	

以上のとおり報告いたします。

2024 年 6 月 9 日

財務 寺内大輔 ㊞

小川有紀 ㊞

監査の結果、以上に間違いありません。

2024 年 6 月 11 日

監査 渡会純一 ㊞

橋本智明 ㊞

5) 年会費納入状況（2024 年 3 月 31 日現在）

寺内大輔財務局長から【資料 5】に基づき、年会費納入状況についての説明があった。なお、中村隆夫会員（指揮・ソルフェージュ）から未納者への対応についての質問と、より厳格に対応してよいのではないかと意見があった。

【資料 5】

会員数	未納状況
607 名	2021, 2022, 2023 年度未納者：8 名
	2022, 2023 年度未納者：32 名
	2023 年度未納者：95 名

6) 『音楽表現学』Vol.22 投稿状況

尾見敦子編集委員会副委員長から【資料 6】に基づき、『音楽表現学』Vol.22 投稿状況についての報告があった。

【資料 6】

投稿：15 本（原著論文 7 本、評論論文 4 本、研究報告 4 本）
書類審査通過：8 本（原著論文 6 本、研究報告 2 本）
書類審査で通過できなかった 7 本は、当該年度会費未納 5 本、郵送消印期限遅れ 2 本である。

7) 『音楽表現学』所収論文 J-Stage 登載について

尾見敦子編集委員会副委員長から【資料 7】に基づき、『音楽表現学』所収論文 J-Stage 登載について報告があった。なお、中村隆夫会員（指揮・ソルフェージュ）から修正の内容について、引用部分の修正は執筆者の責任に依るものか否かの質問があった。尾見副委員長から、執筆者の引用した文献自体の間違いによるものであるもので、J-stage 登載原稿のみを修正することにした、との回答があった。

【資料 7】

・11 月 30 日に Vol.21 を登載予定（長山参事）
・1 本の執筆者から「引用部分に不備があるので修正してほしい、会員にも NL で周知してほしい」との要望あり。引用部分の修正を施した PDF を J-stage に登載することで了承を得た。

8) コンサート助成事業〔20 周年記念事業〕報告

小川有紀助成コンサート委員会委員長から【資料 8】に基づき、第 1 回助成コンサート公募選考結果ならびに第 2 回助成コンサートの公募について説明があった。なお、安田香会員（ピアノ・音楽学）から選考結果の公表について、採択された内容の公表について質問があり、小川委員長から、『音楽表現学』採択原稿の扱いに準じ、求める修正が完全になされた時点で公表するとの回答があった。

【資料 8】

8-1) 第 1 回助成コンサート公募 選考結果について

公募対象は 2024 年 4 月～25 年 3 月の間に行われる公演である。2023 年 9 月 15 日～12 月 15 日の応募期間に計 4 件の申請があった。複数の選考委員の意見を受けて慎重に審議した結果、1 件を「B: 若干の修正を条件に採択」、1 件を「C: 不採択【最終選考ノミネート企画】」、2 件を「C: 不採択」と決定した。

8-2) 第 2 回助成コンサートの公募について

公募対象は 2025 年 4 月～26 年 3 月の間に行われる公演であり、応募期間は 2024 年 9 月 15 日～12 月 15 日とする。

9) 20周年記念事業の進捗状況について

9-1) 英文要旨のHP掲載

- 尾見敦子編集委員会副委員長から英文要旨のHP掲載について以下の説明があった。
- ・『音楽表現学』英文要旨公開の手始めとして、Vol.21掲載の原著論文・研究報告の英文要旨をHPに公開した。
 - ・英語論文投稿のためのテンプレートを学会HPに掲載した。

9-2) 会員情報管理システム構築WG

- 小野亮祐会員情報管理システム構築ワーキング代表から会員情報管理システム構築ワーキングについて以下の報告があった。
- ・学会HPを適宜更新した。また、事務局サーバーと財務サーバーを新設した。さらに新しいHPの会員専用ページの構築に向け、業者からのヒアリングを行った。その結果、会員専用ページに登載する機能について初期費用および経常費用の両面から検討することの必要性が明らかになり、調査を継続することとなった。

10) その他

なし

4. 協議

1) 2024年度事業計画（案）について

杉江淑子事務局長から【資料9】に基づき説明があり、異議なく承認された。【資料9】

第22回（バックスの宴）大会	2024.06.22（土）-23（日）	於：山梨大学
2024年度総会	2024.06.22（土）15:40-16:50	於：山梨大学
理事会（定例）	第1回 2024.06.23（日）16:00-19:00（新旧合同）	於：山梨大学 L527
	第2回 2024.11月末～12月初旬	
	第3回 2025.03	
	第4回 2025.06（大会前日）	
	その他 随時	電子媒体による持ち回り会議
編集委員会	第1回 2024.05	
	第2回 2024.07	
	第3回 2024.09	
	その他 随時	電子媒体による持ち回り会議
助成コンサート委員会	第1回 2024.08	
	第2回 2024.12	
	第3回 2025.03	
	その他 随時	電子媒体による持ち回り会議
『音楽表現学』Vol.22	発行 2024.11.30（土）	
ニューズレター発行	No. 1 2024.07.31（水）	
	No. 2 2024.11.30（土）	
	No. 3 2025.03.31（月）	
*後援 目標35件		

2) 第22回（バックスの宴）大会予算（案）について

小川有紀財務局担当理事より【資料10】に基づき、第22回（バックスの宴）大会は広告費の減収により赤字決算の見込みで、第21回（平安）大会における黒字との相殺はありながら、厳しい会計事情となることが説明された。外部資金に頼りすぎないこと、また学会員の参加費が大会運営の基本資金であり、互いに誘い合っの積極的な大会参加が重要であるとの補足があり、異議なく承認された。【資料10】

【収入】	費目	金額	備考	平安大会決算
	大会参加費	935,500	学会員：6,000円×140名=840,000円 当日一般会員：3,500円（1日参加）×25名=87,500円 当日学生会員：1,500円（1日参加）×2名=3,000円 当日学生会員：2,500円（2日参加）×2名=5,000円	1,254,500
	広告掲載料	90,000		550,000
	『大会要項』販売	5,000	弁当代900円×76食	7,000
	コンベンションビューロ支援費	0	参考：平安大会では1,000円の寄付があった。	0
	参加者弁当代	68,400	+利子7円（2022～23年度）	82,800
	雑収入	0		1,007
	小計	1,098,900		1,895,307
	一般会計より補填	540,700		0
	合計	1,639,600		1,895,307

【支出】	費 目	金 額	備 考	平安大会決算
	基調講演講師謝礼	100,000		100,000
	レクチャー出演謝礼	100,000	講師 2 名	0
	オープニング演奏経費	20,000	唄い隊 楽譜印刷代	20,000
	特別公演出演謝礼	0		170,000
	サロン経費	0		0
	学生アルバイト及び協力スタッフ謝金・交通費補助	200,000	アルバイト＝1,000 円 (1h)、学生 10 名(事前準備・当日・事後も含む)×9 時間×2 日(＝180,000 円)＋交通費 20,000	416,280
	施設・設備関係費	170,000	ピアノ調律費も含む	57,200
	『大会要項』等編集・印刷費	420,000	チラシ、大会要項など	507,724
	大会事業経費	200,000	大会本部経費、役務費等、事務局スタッフ・参事宿泊費、スタッフ・アルバイト弁当代など	122,570
	参加者弁当代	68,400	弁当代 900 円×76 食	82,800
	会議費	3,000	会場費、お茶代など	0
	通信発送費	120,000	『大会要項』等発送費ほか	119,289
	旅費交通費	180,000	実行委員会、事務局スタッフ交通費、表敬訪問費	29,890
	スタッフポロシャツクリーニング	25,000		28,380
	消耗品費	30,000	消毒液(会場用)、荷造り紐、クラフトテープ、セロテープ、マスク、SD カード、ほか文具	118,216
	振込手数料	2,200		2,135
	雑費	1,000		916
	小 計	1,639,600		1,775,400
	一般会計へ繰越	0		119,907
	合 計	1,639,600		1,895,307

情報交換会

【収入】	費 目	金 額	備 考	参考：かきつばた決算
	情報交換会参加費	456,000	6,000×76 名	444,000
	合 計	456,000		444,000

【支出】	費 目	金 額	備 考	参考：かきつばた決算
	情報交換会経費	456,000	ケータリング＋ドリンク	420,940
	大会会計へ繰り入れ	0		23,060
	合 計	456,000		444,000

3) 2024 年度予算(案)について

寺内大輔財務局長から【資料 10】に基づき、従来の名簿発行に代えて簡易な「会員一覧」を発行すること、郵送料等の値上げにより「通信発送費」を大幅に増額せざるを得ないこと、サポート要員の増員および最低賃金改定による時給アップに伴い「役務費」の大幅な増額が見込まれることなどの説明が加えられ、異議なく承認された。

【資料 11】

【収入】	費 目	2024 年度予算	備考
	2024 年度会費	3,000,000	5000 円×600 名
	学会誌売上	30,000	
	論文執筆のしおり売上	6,000	400 円×15 冊
	利息	0	ゆうちょ 2 冊 (一般＋大会)
	大会会計から繰り入れ	0	
	雑収入	0	
	小 計	3,036,000	
	前年度繰越金	4,790,923	
	合 計	7,826,923	

【支出】	費 目	2024 年度予算	備 考
『音楽表現学』 Vol.22	印刷費等	850,000	
	査読謝礼・英文題目校閲	30,000	
ニューズレター No.1 ～ No.3	印刷費等	150,000	
会員一覧	作成・印刷費	40,000	従来の名簿の発行を廃止し、会員番号、名前、専門分野のみを掲載した簡易な「会員一覧」を発行する。
『論文執筆のしおり』	印刷費	0	2024 年度は新たな作成はしない。
理事会	会場費	60,000	
	交通費	500,000	
編集委員会	会場費	40,000	
	交通費	300,000	
助成コンサート委員会	会場費	10,000	新設
	交通費	10,000	
	事務用品費	10,000	
選挙管理委員会	会場費	0	2024 年度は選挙なし
	交通費	0	
	印刷費	0	
	通信発送費	0	
	役務費：発送作業	0	
事務局費	会場費	5,000	
	交通費	50,000	
	通信発送費	450,000	NL no.1 ～ 3、総会資料、インターネットプロバイダ、Zoom など（郵便料金値上げを見込んで増額）
	事務用品費	290,000	封筒、用紙、プリンタインク、Adobe, Chatworks など
	役務費・発送作用	400,000	各種文書作成、発送作業（1,250 円 /1h）、コンピュータシステムサポートなど（1,750 円 /1h）。サポート要員の増員および時給アップに伴い増額。
財務局費	財務関係役務	100,000	入金記録作業など（1,250 円 /1h）
学会基金積立		300,000	
払込手数料		5,000	
雑費		30,000	
大会補助		540,700	
予備費		10,000	
	小 計	4,180,700	
	次年度繰越金	3,646,223	
	合 計	7,826,923	

学会基金

【収入】	費 目	2004 年度予算	備 考
	2024 年度学会基金	300,000	
	『音楽表現学のフィールド 1,2』 売上	15,000	
	利息	0	
	小計	315,000	
	前年度繰越金	5,778,054	
	合計	6,093,054	

【支出】	費 目	2004 年度予算	備 考
	『音楽表現学』 バックナンバー電子化	15,000	j-stage への掲載
学会創立 20 周年記念事業	論文要旨英語化	100,000	2023 年度決算では 16,800 円
	コンサート企画	250,000	
	予備費	-	
	会員情報管理システム構築	100,000	
	払込手数料	2,000	
	小 計	467,000	
	次年度繰越金	5,626,054	
	合 計	6,093,054	

4) 20 周年記念事業について

4-1) 『音楽表現学』英文要旨集について

尾見敦子編集委員会副委員長から以下の説明があった。曾田裕司編集委員（音楽学、音楽教育）から公開の方法についての質問があり、尾見副委員長から、公開方法も含め、作業プランについては今後検討していくとの回答があり、承認された。

発行年度を遡りながら、順次 HP に原著論文・研究報告の英文要旨を HP に公開していく。

4-2) 助成コンサート事業

小川有紀助成コンサート委員会委員長から以下の説明があり、承認された。

事業の充実に向けて、常に改善を図りながら継続していく。

4-3) 会員情報管理システムの構築事業

小野亮祐会員情報管理システム構築ワーキング代表から以下の説明があり、承認された。

現在、HP については 2 種の作業が進行中である。現行の HP については更新の頻度を増やすとともに、新しい HP の会員専用ページの構築については、内容と費用の両面からさらに検討する。

5) 年会費の改正（値上げ）について

小西潤子会長から、諸物価の上昇、郵送料の大幅値上げ、作業量の増大等の理由により年会費の改正（値上げ）が必要である旨の説明を加えて、以下の提案があり、異議なく承認された。

年会費を 2025 年度から正会員 7,000 円とする。なお、学生会員および賛助会員については現行のままとする。

6) 各種規定の改正について

6-1) 「編集委員会規定」の改正（案）について

藤原嘉文副会長から【資料 12】に基づき説明があり、異議なく承認された。

【資料 12】

改 正	現 行
第 7 条 委員会は、理事会及びデザイン室と協同して会務を遂行する。投稿規定に定める原稿種のうち、(5)～(9)の原稿は、 <u>投稿または理事会からの委嘱による。</u>	第 7 条 委員会は、理事会及びデザイン室と協同して会務を遂行する。投稿規定に定める原稿種のうち、(5)～(9)の原稿は <u>理事会から委嘱することができる。</u>
附則 8. 2024 年 6 月 22 日改正	

6-2) 「『音楽表現学』投稿規定」の改正（案）について

藤原嘉文副会長から【資料 13】に基づき説明があった。中村隆夫会員（指揮・ソルフェージュ）からの「5. (3)」の接続詞に関する質問に対して、その内包について説明がなされ、提案通り承認された。

【資料 13】

改 正	現 行
3. 原稿の種別 (9) 原稿は投稿によるものとする。ただし(5)～(9)の原稿は、 <u>投稿または理事会からの委嘱による。</u>	3. 原稿の種別 (9) 原稿は投稿によるものとする。ただし(5)～(9)の原稿は <u>理事会から委嘱することができる。</u>
5. 投稿要領 (3) 原稿の形式および分量は次のとおりとする。 ・原稿の刷り上がりページ数を原則として次のとおりとする。 <u>多量の譜例や図版、また編集に特別な作業や特殊印刷を必要とするもの</u> については、執筆者に超過負担金を求める。 ・ワープロ原稿を原則とし、『音楽表現学』指定テンプレート）を用いて、A4 判縦置き、横書きとする。日本語の場合には 1 ページ＝ 54 字×44 行、英文の場合は 1 ページあたり概ね 800 語～ 900 語とする。 ・原著論文、評論論文、研究報告の冒頭には、タイトルおよび、3～5 個のキーワードを記入する。 ・原著論文、評論論文、研究報告には、日本語の場合は 400 字 <u>以内</u> の要旨を添付する。英語の場合は英語要旨（250 語程度）と日本語要旨（400 字 <u>以内</u> ）を添付する。	5. 投稿要領 (3) 原稿の形式および分量は次のとおりとする。 ・原稿の刷り上がりページ数を原則として次のとおりとする。 <u>基準を超えるもの、特殊印刷を必要とするもの</u> については、執筆者に超過負担金を求める。 ・ワープロ原稿を原則とし、日本語の場合には『音楽表現学』指定テンプレート（1 ページ＝ 54 字×44 行）を用いて、A4 判縦置き、横書きとする。英文の場合は 1 ページあたり概ね 900 語を目安とする。 ・原著論文、評論論文、研究報告の冒頭には、タイトルおよび、3～5 個のキーワードを記入する。 ・原著論文、評論論文、研究報告には、日本語の場合は 400 字 <u>程度</u> の要旨を添付する。英語の場合は英語要旨（200 語程度）と日本語要旨（400 字 <u>程度</u> ）を添付する。
附則 16. 2024 年 6 月 22 日改正	

6-3) 「成果発表・研究会関係細則」の改正（案）について

藤原嘉文副会長から【資料 14】に基づき提案され、異議なく承認された。

【資料 14】

改 正	現 行
(6) 研究発表にあたっては、 <u>発表者及び共同発表者は、大会参加申込締め切り日までに、発表する年度の年会費と大会参加費の納入を完了しなければならない。</u>	(6) 研究発表にあたっては、 <u>発表する年度の年会費と大会参加費の納入を大会参加申込締め切り日までに完了しなければならない。</u>
附則 6. 2024 年 6 月 22 日改正	

6-4) 「経費関係細則」の改正（案）について

「審議事項 5）年会費の改正（値上げ）について」が承認されたことを受け、藤原嘉文副会長から、【資料 15】に基づき提案があり、異議なく承認された。

【資料 15】

改 正	現 行
(1) 本会の年会費は、次の額とする。 正 会 員：年額 7,000 円 学生会員：年額 3,000 円 賛助会員：任意の額	(1) 本会の年会費は、次の額とする。 正 会 員：年額 5,000 円 学生会員：年額 3,000 円 賛助会員：任意の額
附則 2. 2024 年 6 月 22 日改正 上記改正は 2025 年 4 月 1 日から施行する。	

7) 2024-25 各種委員 / 各種組織構成員の委嘱について

杉江淑子事務局長から【資料 16】に基づき説明があり、異議なく承認された。

【資料 16】

7-1) 監事	橋本 智明（再任）	内山 尚美（新任）
7-2) 助成コンサート委員会	藤原 嘉文（退任）	寺内 大輔（新任）
7-3) 会長諮問会議メンバー	安藤 政輝（継続）	佐々木正利（継続）
	後藤 丹（継続）	小西 潤子（新任）
7-4) デザイン室長	奥 忍（再任）	
7-5) 参与	中村 隆夫（継続）	安田 香（退任）
	小野 亮祐（新任）	杉江 淑子（新任）

8) 年会費滞納による除名処分について

杉江淑子事務局長から【資料 16】に基づき、年会費滞納による除名処分対象者について報告があった。阿部亮太郎会員（作曲）から除名候補者への連絡についての質問があり、「事務局から再三再四、郵送も含めた連絡を行ったうえの処分である」との回答があった。また、中村隆夫会員（指揮・ソルフェージュ）から、「未納者への対応はもっと厳格にしてよいのではないか」との意見があった。これらの応答の後、除名処分が承認された。

【資料 17】

上野 仁、歌川 光一、高橋 慧（3 名）

9) 第 23 回大会開催期日と候補地について

杉江淑子事務局長から【資料 18】に基づき、第 23 回大会開催期日と候補地について報告があり、承認された。その後、開催大学の会員が欠席であったため、実行委員メンバー予定の渡会純一会員から挨拶があった。

【資料 18】

期日：2025 年 21 日（土）～ 22 日（日）（予定）
会場：宮城教育大学（申請準備中）
愛称：募集
実行委員会：委員長（検討中）、事務局長 原田 博之（宮城教育大学）

10) その他

なし

5. 閉会の辞

宮本事務局担当理事より、議長・記録解任の後、閉会の辞が述べられた。その後、退任する小西潤子会長および理事と次期会長および理事の紹介と挨拶があった。

以上。



第22回（バックスの宴） 大会写真集

菅野由弘氏作曲・指揮・「唄い隊」による《酒を造る里の物語》で幕開け、基調講演の茂手木潔子氏は、杜氏の法被姿で登場され、ワインの製造の講演内容は尺八の名手、奥田徹氏の笛で余韻を満喫、真摯で充実した「総会」の後は「サロン」のグループ討論、初日最後はずらりと並んだ日本酒とワインで締めくくりました。2日目の分科会も多種多様な研究発表があり、大いに盛り上がった（バックスの宴）大会でした。



日本音楽表現学会 第 22 回 (バッカスの宴) 大会参加者の声

バックカスの宴

新海 節 (ピアノ / 安田女子短期大学)

山梨大学にて行われた第 22 回大会【バックカスの宴】に実行委員として参加させていただきました。

基本的に実行委員は開催地周辺の会員により構成させることが多いかと思いますが、私が山梨大学大学院を修了していたこともあり、今回、実行委員長の藤原先生よりお声をかけていただきました。

このような大会に運営スタッフとして参加する経験があまりなかったため、個人的にはご参加いただきました皆様や他のスタッフの先生方に対し、ご迷惑をおかけしてしまうこともあったと思いますが、大会は万事順調に執り行われたのではないかと感じております。

【バックカスの宴】というテーマの下、様々な企画や発表が行われましたが、特に私が印象に残ったものは自主上映された映画でした。能登の杜氏四天王の話や杜氏としてのワザの継承などの話は音楽を演奏したり、研究したりすることにも通じるものがあり、前日の基調講演やレクチャーで得ることのできた知識も踏まえて、興味深く鑑賞することができました。

次回以降も大会運営に関わる機会があれば、勉強させていただきたいと思います。また、自分自身の研究活動に関して刺激を受けた機会となりました。ありがとうございました。

「酒造り唄」 “唄い隊” に参加して

久保田 葉子 (ピアノ / 十文字学園女子大学)

「酒を造る里の物語」の実演は大会のテーマに合うだけでなく、仕事唄に興味を持つきっかけを与えてくれるものであった。これは日本音楽表現学会ならではのオープニングになると思い、唄い隊に参加することにした。合唱曲では、仕事をする人たちによる掛け合いを実感することができ、働く人の体の動きや、職人の誇りを想像した。今回歌った混声合唱と越後の杜氏が唄う「酒屋唄」が同じではなかったとしても、音楽の形で唄を残し、語り継ぐことに賛成である。

私は日頃、教職を目指す学生と一緒に、歌や朗読による総合表現に取り組んでいる。作品の精神を理解するには、一つ一つの言葉の意味や歴史について調べ、想像することが大切だと考えている。作品の内容を説明するのではなく、描かれている世界を共感的に見つめ、自分の解釈を伝えようとするのが表現活動だと思う。今回唄い隊に参加して改めて感じた、先人の仕事について関心を高め、自分にとって身近なものにしていく楽しさを忘れずにいたい。「バックカスの宴」大会の素晴らしい企画と唄い隊の仲間感謝するとともに、今後も皆で大会テーマに沿った実演ができることを期待している。

“唄い隊” (独唱) に参加して

水野 亜歴 (ピアノ / 山梨大学)

バックカスの宴大会では、オープンニングとして本音楽表現学会有志) のメンバーとしてが作曲された合唱曲《酒を造る里の物語》「酒造り唄」「三ころ」の 3 曲を演奏しました。杜氏役として独唱を務めさせていただき、酒造りの中で音頭を取っている様子を声や現すれば良いのか悩みながら準備しました。

リハーサルは当日のみということで少し不安な気持ちもありつつ会場入りしましたが、作曲者である菅野氏から直接曲に対するお話を伺った後は、先生の指揮からのイメージが一気に広がったことで唄い隊の一体感が生まれる本番となり、独唱も心強さを感じながら歌うことが出来ました。その後の茂手木氏の基調講演、菅野氏、奥田氏のレクチャーを聞くことで酒屋唄へのイメージがさらに膨らみ、私の中で大好きな曲のひとつとなりました。

唄い隊グループのサロンでは菅野氏も加わっていただき、今日における伝承と継承をテーマに充実した話し合いができました。貴重な機会をくださった皆様、本当にありがとうございました。



バックカスの宴大会に参加して～発表者の立場から～

二宮 英美歌 (ピアノ・北海道教育大学岩見沢校)

この度の『バックカスの宴』大会へは本当に久しぶりに参加させていただきました。初めて訪れる甲府の地で、懐かしく温かな学会員の皆様にお会いできましたことを大変嬉しく思います。

研究発表では、モーリス・ラヴェルのピアノ作品《À LA MANIÈRE DE …風に》に関する一考察として《ボロディン風に～ワルツ～》に焦点を当て、この作品の元になった原曲はボロディンの《小組曲》より第 6 曲〈セレナード〉と考えられるという結果を導き出しました。ラヴェルがいかにボロディンに影響を受けたのか、当時のパリの芸術的潮流や、2 作品の調性、拍子、リズム、和声、フレーズ、手のポジショニング等の特徴をピアニストの視点から探り、比較分析して共通性を見出しました。発表の最後には、参加された皆さまからも同意のご意見をいただき、実りある発表となりました。今後は論文に纏めてみたいと思っています。

他の発表や講演も聴かせていただきましたが、大変勉強になり、また次の研究をしたいという刺激と希望を貰って北海道へ戻りました。全国大会が 22 回を迎え、このように音楽

表現に関する発表の機会や音楽家同士の交流の場をいただけることは、大変貴重で有難いことです。

ご準備に携われました学会役員・事務局の皆様、大会実行委員会や山梨大学の皆様には心より御礼申し上げます。また皆様にお会いできますことを楽しみにしつつ、これからも教育と研究の両立に励んでいければと思っております。

研究発表をふりかえって

中畑 淳（ピアノ・福島大学）

研究発表にあたり、学会役員をはじめ、会場スタッフのみなさまに大変お世話になりました。まずはこの場を借りて御礼申しあげます。

私は実技領域の研究が専門ですが、今回は学生による音楽的アウトリーチ活動の経験について発表いたしました。2020年頃からコロナ禍で演奏会そのものが強く制限されたため、活動再開を模索していました。そのような折りにご縁があり、2022年度から学生コンサートの企画や運営に関わっています。

発表では、動画を用いてプレゼンテーションを行う予定でしたが、ふだん使用するアプリケーションが作業不能に陥っていました。このため編集を諦め、映像に切り替えながら発表することにしましたが、今度は音声が会場のプロジェクタから出ません。幸い動作確認時に判明したため、機器担当の近藤晶子さんから助言や迅速なご対応をいただき、パソコンのスピーカーにマイクを近づけて再生するという、アナログな方法で本番はなんとか切り抜けました。

舞台裏はともかく、研究発表後には様々な視点からの建設的なご意見を伺うことができました。初対面のかたも色々お話しさせていただき、学会ならではの貴重な機会でした。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

第22回大会での学び

竹下可奈子（幼児音楽教育・音楽学/新見公立大学）

今回、はじめて司会を担当させていただきました。貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

私が司会を担当した分科会ⅢBでは、歌曲と言葉の関係に焦点を当てた研究が発表され、非常に勉強になりました。私自身、以前はロシア語のイントネーションとロシア歌曲との関係について研究をすすめていた時期もあったのですが、最近はその分野からすっかり遠のいておりました。そのため、今回の大会参加で大きな刺激を受けるとともに、歌と言葉の関係に焦点を当てた研究の面白さを再認識いたしました。

また、ほかの分科会のご発表も拝聴いたしましたが、どれも興味深い内容で「音楽」の幅広さを実感いたしました。初めて聞く楽譜分析ソフトウェアを用いたご発表に出会えたり、

音楽活動の記録方法について新たな知見を得られたりと、私にとって非常に実りある大会参加でした。今後の大会にも参加させて頂くことを楽しみに、研究に励んでいきたいと思っております。

分科会司会者としての参加

神部 智（音楽学/国立音楽大学）

昨年の平安大会に続いて、今回のバックスの宴大会でも分科会司会をお引き受けすることになり、久しぶりに山梨大学へと向かいました。甲府までは電車で2時間半ほどの小旅行。短い旅路の間、青々としたブドウ畑や、台形の山頂を時折のぞかせる富士山を車窓から眺めながら、甲州の美しい自然に心が研ぎ澄まされていくようでした。

緑鮮やかな甲府キャンパスの会場では、びっしりと埋め尽くされた分科会の研究発表が続き、心地よい緊張感に包まれます。それぞれの発表はいずれも刺激的で、大変意義あるものでした。2日間にわたる全国大会は2日目の分科会が学術的に重要ですが、開会式の華やかなオープニング演奏で始まった1日目のメニューも「バックスの宴」らしく様々な意匠が凝らされ、興味深く拝聴しました。この素晴らしい大会を支えて下さった全ての皆様に、心より感謝いたします。

今回、久しぶりにフルスペックの対面方式で行われたバックスの宴大会。学会という研究機関における全国大会の「イベント」としての意味合いについて、改めて考える良い機会となりました。来年は宮城県で開催予定の全国大会も、大いに期待しております。

酒と音楽

高沢 学（ピアノ）

コロナ後初めてフルスケジュールで行われた第22回（バックスの宴）大会は、情報交換会での後藤丹さんの恒例の2本のリコーダー演奏を始め、やっと平常というものが戻ってきたことに感謝しながら新しい希望にも満ちた気持ちで臨んだ会となりました。

大会第1日目の基調講演やレクチャーは毎年興味深い内容で楽しみにしていますが、今回のお酒にまつわるテーマは土地柄と音楽表現にパーフェクトにマッチしたものだったように思います。レクチャーをされた作曲家の菅野由弘さんには、オープニング演奏の合唱曲『酒を造る里の物語』を私が勤務する大学でアメリカ人の学生たちに指導して頂いたことがあり、再びこの合唱曲に触れる機会があったことは自分にとって意味深いものでした。また、茂手木潔子さんの越後の酒屋唄についての貴重な資料や、奥田徹さんの歴史とサイエンスに基づいたワイン造りのお話には、これ程までに生活に結びついた研究材料があるとはと感心させられました。そして、

日本酒やワイン造りを耳や目で学んだ後、その新鮮な感動をそのまま情報交換会で味覚として味わえるとは、なんとも洒落た大会の始まりでした。それにしても、酒と音楽のなんと相性のいいことか！

バックカスに乾杯！

田中 慈子（ピアノ／京都光華女子大学）

このたび、勤務校の校務の都合で情報交換会から参加させて頂きました。会場に到着すると、大会の愛称である「バックカスの宴」にちなんで、たくさんのワインと能登半島地震支援の日本酒が出迎えてくれました。

会場は、コロナが明けて4年振りに、参加者が集った喜びに溢れていました。思う存分、友人と近況を伝え合い、音楽を語り合いました。新しい出会いもありました。そして、みなさまお待ちかね、後藤丹さんによるモーツァルトの《トルコマーチ》のリコーダー演奏が始まると、思わずお隣の方（バックカスも?!）とリズムに乗って微笑み合いました。会場のアンコールにこたえて《ふるさと》では、後藤さんの優しいリコーダーの音色に包まれました。日本音楽表現学会ならではの、一瞬にして人と人をつなぎ、あたたかな時間となりました。思い起こせば、11年前のイーハトーヴ大会が、私にとって人生初の学会参加、そして研究発表デビューでした。知り合いもなく不安でいっぱいでしたが、交流の輪が一気に広がるきっかけとなったのが情報交換会でした。

本大会も実行委員、役員のみなさまの細やかで行き届いたご準備のおかげで、音楽にあふれた二日間を過ごすことができました。

「バックカスの美酒に酔う」

人見 厚子（一般参加・初等音楽教育学）

甲府では、学びと気付きに溢れる得難き2日間を過ごした。

1日目の基調講演は、聴くほどに酒造りの仕事歌と、私が日頃、身近に接している能のシテ謡や地謡との類似性が感じられ、大変に興味深く拝聴した。

大会要項を大切に読み込んで参加した2日目の研究発表は、自分の仕事と関わりがある内容のもの。働く中での悩み解消へのヒントとなり得るものが複数あった。特に外国にルーツを持つ子どもたちに寄り添う多文化音楽教材についての研究実践の報告は、今まさに海外から訪れた児童を自分の授業に迎え入れるところである私にとって、示唆に富んでおり、ありがたかった。お土産に買い求めた甲州のオレンジワイン、このようなお酒の存在は、レクチャーのスライドで初めて知った。

普段は関西の片田舎の小学校の音楽室で淡々と日々を送っている私…今般のICT普及で、いかなる情報も機械の前に居ながら手に入れられると、いつの間にか勘違いしていたようだ。これからは雨に濡れる緑の美しさに触れる度、香り高いワインを味わう度に、甲府の街での豊かな学びを思い出さよう。大会運営に関わられた役員の皆様と、学会を慈しみ発展させてこられた会員の皆様への深い感謝でいっぱいである。



第2回 助成コンサート公募！！



学会創立20周年を記念して誕生した「助成コンサート委員会」は、研究に基づいた質の高い音楽活動の推進を目的として、会員による「日本音楽表現学会助成コンサート」の公募を行います。演奏・創作等の発表を助成することによって会員の音楽表現活動を奨励し、音楽表現の深化と発展をめざします。昨年度の第1回助成コンサートの結果はまだ公表に至っていませんが、1件のコンサートが採択されています。一方、「助成コンサート委員会」ではこの間に「第2回助成コンサート」の公募の準備を進めています。公募の概要は次のように予定しています。みなさま、お心づもりをお願いいたします。

~~~~~

助成対象：2025年4月～2026年3月の間に開催される本学会員主催の自主企画音楽公演

公募の詳細公表：2024年9月 本学会 HP において発表

応募締切（予定）：2024年12月15日（日）（変更がある場合は9月にHP上で公表する）

選考結果公表（予定）：2025年4月初旬 応募者宛に連絡すると共に本学会 HP において公表

会員のみなさまのご応募をお待ちしています。

~~~~~

新入会員紹介

2024 年 3 月 11 日～7 月 10 日の間に、 プライバシーに付き削除

の 14 名の方々が入会されました。7 月 15 日までに事務局にお送りいただいた自己紹介文を掲載します。なお、紙数の関係で、丁寧語・謙譲語・尊敬語などの敬語や文末の「よろしくお願いします」などのご挨拶は省いています。(五十音順)

プライバシーに付き削除

後援コンサート等情報

伊藤 亜希子さん

後援会創立 25 周年記念

第 22 回伊藤亜希子ピアノリサイタル

日 時：2024 年 6 月 16 日（日）13:30 開演

会 場：函館市芸術ホール [ハーモニー五稜郭]

料 金：一般 2000 円 学生 1000 円

出 演 者：伊藤亜希子（ピアノ）

主な曲目：函館在住のピアニスト伊藤亜希子の演奏を通して、
ピアノ音楽に親しみ、クラシックをより身近に
感じ理解を深める。

河原 千尋さん

河原千尋ピアノコンサート

日 時：2024 年月 6 月 16 日（日）14:00 開演

会 場：珈琲と絵と音楽 'TOPOS'

料 金：3,000（ケーキセット付き）

出演者：河原千尋（ピアノ）

主な曲目：J.S. バッハ / フランス組曲より、滝廉太郎 / 憾
メンデルスゾーン 〈ヴェニスの舟歌〉、ドビュッシー 《子
供の領分》より 他

問合せ先：info@kawaharapf.live

豊田 典子さん

歌の会★青い星が海に日に贈る

世界の名歌 100 曲リクエストコンサート

日 時：2024 年 7 月 15 日（月・祝）14:00 開演

会 場：心齋橋パルコ SPACE14

料 金：2500 円 全自由席

出 演 者：豊田典子（ソプラノ）

主な曲目：マスネ 《Élégie》、フォーレ 《Clair de lune》、高
田三郎 《くちなし》、宮沢賢治 / 井藤麻依子 《星
めぐりの歌》他

安田 香さん、見田 寛さん

第 5 回瑠璃会コンサート

日 時：2024 年 8 月 18 日（日）13:00 開演

会 場：クララザール（じゅうろく音楽堂）

料 金：無料

出 演 者：安田 香（ピアノ）、見田 寛（ピアノ）

主な曲目：R. シューマン / ピアノソナタ第 2 番 ト短調
Op.22, C. ドビュッシー / 前奏曲集第 1 巻より
〈アナカプリの丘〉

問合せ先：sousoukai.sousoukai@gmail.com（実行委員会 岡井）

服部 麻実さん

服部麻実ソプラノ・リサイタル X

日 時：2024 年 10 月 4 日（金）19:00 開演

会 場：ザ・ルーテルホール（北海道札幌市）

料 金：一般 3000 円 学生 1000 円（当日一般 3500 円）

出 演 者：服部麻実（ソプラノ）、ミハイル・カンディンスキー
（ピアノ）* 非会員

主な曲目：ムソルグスキー《子供部屋》（全曲）メトネル《冬

の夜》プロコフィエフ《みにくいあひるの子》他
連絡先：平和ステージオフィス 090-6442-4053
上野 隼、河野 久寿、斉藤 武、藤原 嘉文さん
山梨の作曲家による『甲州 21 世紀音楽展』～第4回作品演奏会～
日時：2024 年 10 月 12 日（土） 14:30 開演（予定）
会場：山梨大学 大村記念ホール（大村智記念学術館内）
料 金：無料

出演者：池山洋子、上野隼、上野千夏、藤原嘉文（pf.）、
宮田知絵（ソプラノ）、清水咲英（フルート）、
山本ゆきの、大友美由奈（三味線）、藤澤仁奈（マ
リンバ）、他（予定）
曲 目：上野隼、河野久寿、斉藤武、佐藤晶子、兵藤建希、
平出新、藤原嘉文、山下久幸の作品（予定）山梨
大学関係の作曲家（卒業・修了生及び教員）を中
心に、同時代の音楽を山梨から発信しようと集ま
った作曲グループ。今回はその第4回作品展。

豊田 典子さん

歌の会★青い星 第5回定期演奏会

創立 10 周年記念コンサート室内オペラ
「新・セロ弾きのゴーシュ」
日時：2025 年 3 月 9 日（日） 15:00 開演（14:30 開場）
会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
料 金：3500 円 全自由席
出演者：豊田典子（ソプラノ）
主な曲目：声楽曲の研究団体である歌の会★青い星（代表：
豊田典子）が、創立 10 周年を記念して、第 5 回
定期演奏会において、宮沢賢治原作、中西覚脚本、
作曲の新作室内オペラを上演する。

高旗健次さん ヴァイオリンをもっと知るためのコンサート — 2 本のヴァイオリンによる二重奏 —

日時：2025 年 3 月 13 日（木） 18:30 開場、19:00 開演
会場：東広島芸術文化ホールくらら 小ホール
（〒739-0015 東広島市西条栄町 7 番 19 号）
料 金：一般：3,000 円、学生：1,500 円
（当日販売は 500 円増し・学生は大学院生以下で
現職教員は除く）
出演者：瀬崎明日香・高旗健次（ヴァイオリン）、垣内敦（ピ
アノ）
曲 目：ハルヴォルセン：（ハイフェッツ編）：《パッサカ
リア》、イザイ：《アミティエ》作品 26、ショスタ
コーヴィッチ：《5 つの小品》、モシュコフスキ：《2
つのヴァイオリンとピアノの組曲》、サラサーテ：
《ツイゴイネルワイゼン》（VL.2 本版）

主 催：広島大学大学院人間社会科学研究科音楽文化教
育学領域弦楽研究室
チケット販売 & 問合せ先：広島大学大学院人間社会科
学研究科音楽文化教育学領域弦楽研究室
E-mail：kent-violin@hiroshima-u.ac.jp TEL/FAX：
082-424-6831

河原千尋さん 音楽表現のバトル VI

日時：2024 年 10 月 12 日（土） 14:00 開演 13:30
開場
会場：所沢市民文化センターミューズ キューブホール
料 金：前売券 3,500 円 当日券 4,000 円
出演者：河原千尋（ピアノ）ベニート・ガルシア（フラメ
ンコダンサー）
主な曲目：J.S. バッハ / イギリス組曲第 3 番 グラナドス /
アンダルルーサ、アルベニス / アストゥリアス、他
問合せ先：info@kawaharapf.live

上野 隼 さん

シャトー・メジエール管弦楽団第2回定期公演

日時：2025 年 3 月 15 日（土） 13:30 開場 14:00 開演
会場：YCC 県民文化ホール 大ホール（甲府市寿町 26-1）
料 金：1,000 円（小学生以下無料）
出演者：上野 隼
主な曲目：ドヴォルザーク《交響曲第 9 番「新世界より」》、
ヤナーチェク《シンフォニエッタ》
主 催：シャトー・メジエール管弦楽団
問合せ先：shamekan0212@gmail.com（事務局）

水野亜歴さん、造座千晴さん

ブルテノールコンサート ～大中恩生誕 100 年を記念して～

日時：2024 年 10 月 12 日（土） 14 時開演（13 時 30
分開場）
会場：アートサロン空
料 金：一般 3,000 円 学生 2,000 円（全席自由）
出演者：藤川晃史（テノール）、水野亜歴（テノール）、造
座千晴（ピアノ）
主な曲目：「朝ゆえに」 谷川俊太郎の詩による五つの歌、歌
曲集「愛ゆえに」 他

事務局からの重要なお知らせとお願い

1. 年会費の納入について

- (1) **納入期限**：その年度の4月1日から大会開催1週間前までにお願いします。

学会は皆さま方の年会費で運営されています。滞納されますと、機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動全体に支障をきたします。また、年会費納入は、学会の各種活動に参加するための条件とされています。年会費納入が例年、年度当初（4月）に速やかな納入をお願いしています。今年度の会費をまだお振り込みでない方はお急ぎください。なお、3年滞納された方は、総会での審議事項、年会費滞納による除籍対象者になります。無意識滞納にご注意いただきますと同時に、対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」）に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。

- (2) **振込方法**：

年会費納入方法の合理化のために、「ゆうちょダイレクト等ネットバンキング」に入金できる方法も導入しました。ネットやコンビニ等を利用して、銀行や郵便局に行かなくても納入が可能です。もちろん従来の「払込取扱票」でも構いません。年度当初の速やかな納入をお願いします。

年会費納入方法：A) 郵便局からの振込（払込取扱票を利用）

（記号—番号）01370 =6= 78225 加入者名：日本音楽表現学会

B) 他行等からの振込（店名 - 口座番号）

店名 一三九 (139) 店 預金種目：当座 口座番号：0078225

- (3) **領収書・請求書の発行**：必要な方は事務局へお問い合わせ下さい。

領収書は原則として発行いたしません。「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」）を領収書として保管ください。大学研究費での引き落とし等、請求書・領収書の必要な方は事務局へお問い合わせください。財務局へ取次ぎ、発行手続きをいたします。

- (4) **年会費減免措置について**：自然災害等の被災による減免措置の制度

学会では、地震や洪水等、自然災害の被災によって年会費納入が困難な会員の年会費を減免する制度があります。必要な方は、HPから「年会費減免願」書식을ダウンロードし、申請ください。理事会に諮り、減免手続きをいたします。

2. 住所等、会員情報の変更 HP をご覧の上、事務局までメールでご連絡ください

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

学会からの送付物は事務局本部で理事とスタッフが手作業で、お届けいただいた連絡先にお送りしています。しかしながら、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。また、経費節減のために学会からの郵送物は郵送ではなく、「デリバリーサービス」を使っています。郵便局宛の住所変更届は民間配送業者には届きません。学会からの送付物が必ずお手元に届くように、また返送による送付作業の手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

郵送物の住所変更届を郵便局に提出されても民間配送業者には届きません。

変更届はかならず事務局宛にお願いします。 <http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>
変更のお届けを事務局で受け取りましたら、「受け取りました」の返信をお送りします。返信が届かない場合は、お手数ですが、確認のため再送くださるようお願いいたします。

3. 学会員の研究サポート制度

- (1) **機関誌『音楽表現学』への投稿**

原稿の投稿には、前年度末までに会員資格を取得し、当該機関紙発行年度の年会費を完納していることが必要条件です。手続きには2～3週間かかります。その点ご確認ください。

『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

投稿〆切は毎月 5 月 15 日 24:00 です。

(2) 大会での発表

本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。〆切期日は厳守です。

大会発表応募〆切は毎回 2 月 15 日 24:00 です。

(3) 第 2 回「助成コンサート」への応募

会員による「日本音楽表現学会助成コンサート」の公募を行います。「助成コンサート」は演奏・創作等の発表を助成することによって会員の音楽表現活動を奨励し、音楽表現の深化と発展をめざすことを趣旨としています。本紙「NL2024-No.1 の p.4 に公募概要をお読みください。会員のみなさまのご応募をお待ちいたします。

4. 会員への情報公開

(1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

研究ノート、随想などを図表等を含めて刷り上がり 1 頁以内でお送りください。

投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

(2) コンサート等の後援・協賛

学会 HP より「コンサート等後援／協賛申請フォーム」をダウンロードして、必要事項を記載し、メール添付ファイルにて学会事務局に申請してください（各項目は 1 行 39 字以内を原則とします）。確認後、事務局より「後援受理書」をお送りしますので、チラシやプログラムに学会名を掲載ください。HP 及びニュースレターにも案内を掲載します。出演者氏名の掲載は会員のみとなります。事務局からの返信が 1 週間以内に届かない場合は、事務局にご連絡ください。

(3) 新刊案内・CD/DVD リリース

ニュースレターと HP に掲載します。

- ・新刊案内の項目は著者名（会員）、書名、ISBN、出版社、発行年月日、判型と頁数、税込価格（税抜価格）、購入方法など
- ・CD、DVD の項目は制作・編集者名（会員）、タイトル、DVD-No.、所要時間、発売・販売、発行年月日、税込価格（本体価格）、購入方法など

(4) その他：隣接領域の研究会等情報などもお寄せください。

5. 学会発刊の書籍等の販売について

(1) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法と価格

メール等で事務局までお申し込みください。代金は、到着後郵便振替でお願いします。大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。

Vol.	会員価格（1 部）	一般価格（1 部）
1 ～ 3	2,500 円＋送料	3,000 円＋送料
4 ～ 14	3,000 円＋送料	3,500 円＋送料
15 以降	2,500 円＋送料	3,000 円＋送料

(2)『音楽表現学のフィールド2』好評発売中。

[購入申込書]

メール等で事務局までお申し込みください。

会員価格にて購入いただけます。代金は、到着後書籍に同封の郵便振替でお願いします。

会員価格:3,000 円 (正価 $\times 0.9 - \alpha$ 、税込・送料込み)

一般価格:3,456 円 (税抜 3,200 円)

『音楽表現学のフィールド2』の購入を申し込みます。

氏 名: _____

部 数: _____

送 付 先: _____

連絡用 E-mail: _____

なお、『音楽表現学のフィールド1』は絶版です。購入希望にお応えできなくて残念です。増版の目処は現在のところ未定です。

(3)『音楽表現論文執筆のしおり』好評につき増刷発売中。

[購入申込書]

ご自分の原稿作成の指針となるだけでなく、卒論・修論・博論指導に必携の「しおり」として、研究室に備えたいという希望が数多くあります。このような声に応えるために、会員メンバーには1部400円(+送料)纏めてお送りしています。ご希望の方は事務局までお申し込みください。代金は、到着後書籍に同封の郵便振替でお願いします。

『音楽表現論文執筆のしおり』の購入を申し込みます。

氏 名: _____

部 数: _____

送 付 先: _____

連絡用 E-mail: _____

会員価格:400 円 (+送料)

一般価格:500 円 (+送料)

7. 入会手続きについて

本会機関誌への投稿や大会での発表の申込みは本会会員であることが条件です。手続きには2～3週間かかります。

- ①入会申込書はHPからダウンロードし、メールで事務局にお届け下さい。
- ②事務局から必要な手続きについて連絡が届きます。その連絡に沿って手続きをお進めください。
- ③手続きが完了したら、理事会の承認に進みます。
 - ・学会からの連絡(印刷物お届けなど)は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。
 - ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

8. 退会手続きについて

退会には以下の3点が必要です。「退会願」を提出しないで、年会費を先延ばしにしていると「会則第8条」によって除名処分になります。仕事や私的な理由で残念ながら学会員を「これ以上続けることができない」と判断された場合には、必要な手続きを行ってください。

- ①「退会届」をHPからダウンロードして必要項目をご記入の上、メールで事務局にご提出下さい。
- ②退会の必要条件「その年度までの年会費を完納」を満たしているかどうか、ご確認ください。
- ③手続きが完了したら、理事会の承認に進みます。

学会事務局 E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp
http://www.music-expression.sakura.ne.jp/

【参考資料】

「音楽表現学会大会の歩み」

日本音楽表現学会の大会は今年度第22回を数えました。この先の企画をするためにも、ここでこの22年をふり返ってみたいと思います。どうぞご参考になさってください。

第1回(設立)大会 2003年5月30日(金) 於:エリザベト音楽大学

基調講演:西山祐司氏「音楽表現の意味と創造的解釈を巡って」

第2回(ライラック)大会 2004年6月5日(土)-6日(日) 於:北海道教育大学

基調講演:谷本一之氏「異文化から見た音楽表現の広がり」

第3回(アクアブルー)大会 2005年7月2日(土)-3日(日) 於:静岡コンベンションアーツセンターグランシップ

基調講演:ギニャール旭西氏「筑前琵琶の表現と技法—超自然描写を巡って」

第4回(グリーンアベニュー)大会 2006年6月17日(土)-18日(日) 於:岡山大学創立50周年記念会館(岡山)

基調講演:五嶋みどり氏「これからの演奏家の理想の姿」

シンポジウム:奥忍×五嶋みどり×津上智美×松本勉²²音楽家の活動—コミュニティ・エンゲージメント—

- 第5回 (火の国) 大会** 2007年6月16(土)-17(日) 於：熊本大学教育センター
基調講演：松原千振氏「フィンランドでの体験—TAPIOLA 合唱団と共に」
シンポジウム：中村隆夫×松原千振×古橋富士雄×齋藤祐「日本の合唱の問題点と展望」
- 第6回 (ベル・ジューリオ) 大会** 2008年6月14(土)-15(日) 於：昭和音楽大学新百合ヶ丘キャンパス
基調講演：本山節彌氏「『大きな木』を若者と共に見つめて—高校生の演劇センスと音楽性—」
コンサート：電子オルガン・鍵盤ハーモニカ、箏、打楽器による「コンチェルト・デル・ベル・ジューリオ」
- 第7回 (ブロムナード in フォレスト) 大会** 2009年6月13(土)-14(日) 於：宮城教育大学青葉山キャンパス
基調講演：星出豊氏「音楽記号と音楽表現」
シンポジウム：小畑郁夫×吉川和夫×赤松林太郎×星出豊「音楽創造における楽譜の意味」
- 第8回 (響の都) 大会** 2010年6月12(土)-13(日) 於：京都女子大学音楽棟
基調講演：河村晴久氏「表現する身体」
シンポジウム：安藤政輝×河村晴久×佐々木正利×山名敏之「表現する身体をつくる」
- 第9回 (甘露) 大会** 2011年6月11(土)-12(日) 於：上越教育大学
基調講演：津上英輔氏「お酒と音楽」
シンポジウム：奥忍×伊野義博×宝福英樹×津上英輔「お酒にまつわる音楽表現」
- 第10回 (Blue Valley) 大会** 2012年6月23(土)-24(日) 於：山梨大学甲府キャンパス
基調講演：大場俊一氏「“らしさ”と音楽表現」
シンポジウム：安田香×加藤晴子×吉田治人×大場俊一「演奏者にとっての“らしさ”とは」
- 第11回 (イーハトーヴ) 大会** 2013年6月8(土)-9(日) 於：盛岡地域交流センター+いわて県民情報交流センター
基調講演：佐藤泰平氏「“県さん”の音楽表現—〈マサニエロ〉他をめぐって—」
ワークショップ：「童話『かしはばやしの夜』を上演しよう—参加者による即興上演」
- 第12回 (まほろば) 大会** 2014年6月21(土)-22(日) 於：帝塚山大学学園前キャンパス
基調講演：藍川由美氏「日本語の特性と古代歌謡及び唱歌・童謡の歌い方を考える」
シンポジウム：村尾忠廣×北川純子×岡田孝×鶴澤友球×藍川由美×藤田元春師「男のソプラノ・女のバリトン」
- 第13回 (美ら島) 大会** 2015年6月20(土)-21(日) 於：沖縄県立芸術大学
基調講演：金城厚氏「沖縄文化と古典芸能」
シンポジウム：小西潤子×久万田晋×島袋君子×金城淳「沖縄音楽のローカルとグローバル」
- 第14回 (MEM) 大会** 2016年6月4(土)-5(日) 於：拓殖大学北海道短期大学
基調講演：坂東元氏「動物の声を聞く」
シンポジウム：寺内大輔×佐々木正利×小西潤子「人間の声を聞く—一人が歌うとき」
- 第15回 (クロッシング) 大会** 2017年5月17(土)-18(日) 於：東京音楽大学
基調講演：小鍛治邦隆氏「クロッシング〜バッハの作曲技法伝習—息子たち、弟子たちへの教育から見る歴史性—」
レクチャーコンサート：岡田敦子×東京音楽大学教員+東京音楽大学博士後期大学院生「クロッシングによる演奏研究の可能性」
- 第16回 (折り鶴) 大会** 2018年6月9(土)-10(日) 於：広島文化学園大学
基調講演：原田宏司「音楽はいかにヒロシマを伝えてきたか」
レクチャーコンサート：「原爆の記憶と音楽」第1部「被爆体験と音楽」第2部「原爆詩と音楽」第3部「反戦詩と音楽家」
能登原由美×光氏平有紀×末永雅子×高旗健司×多田倫可×乗松恵美×福原泰宏×松前良正+合唱団ある
- 第17回 (かきつばた) 大会** 2019年6月15(土)-16(日) 於：愛知教育大学
基調講演：伊藤康宏氏「音楽と感情の狭間」
対談：伊藤康宏×田中昌司×水戸博道「音楽する脳と身体」
- 第18回 (ペガサス) 大会** 2020年6月13(土)-14(日) コロナによる誌上発表
- 第19回 (天翔るペガサス) 大会** 2021年6月19(土)-20(日) 新島学園短期大学（オンライン）
基調講演：神部智氏「神話と音楽」
レクチャーコンサート：奥忍「神話に基づく音楽」
1. ギリシャ神話に基づく音楽：安田香×新保絵美×柚木たまみ×前田則子
2. 北欧神話に基づく音楽：神部智×成瀬当正×大場俊一
3. 日本神話に基づく音楽：齋藤武×宮田知絵×水野亜歴×山田真紀
- 第20回 (ソナーレ) 大会** 2022年6月18(土)-19(日) 於：浜松学院大学
基調講演：島和彦氏「楽器をめぐる自然と文化」
レクチャーとコンサート：小西潤子×仲嶺寛×寺内大輔・安藤政輝・安藤珠希「学会から考える音楽表現の持続可能性」
- 第21回 (平安) 大会** 2023年6月17(土)-18(日) 於：京都女子大学
基調講演：佐々木丞平氏「京の美意識」
レクチャー1：小川有紀「明治期・プロテスタントの宣教師が伝えた讃美歌」
レクチャー2：福本康之「讃美歌の影響を受けた仏教讃歌」
特別公演「文楽」奥忍（企画）：桐竹紋臣×桐竹紋秀×吉田蓑秀「文楽人形とその遣いについて」
- 第22回 (バックスの宴) 大会** 2024年6月22(土)-23(日) 於：山梨大学甲府キャンパス
基調講演：茂手木潔子氏「酒屋唄に聞く日本の声の表現」
レクチャー1：菅野由弘氏「酒づくりの合唱曲」
レクチャー2：奥田徹氏「ワイン製造における味の表現と音楽」

日本音楽表現学会第23回大会のご案内（第1次）

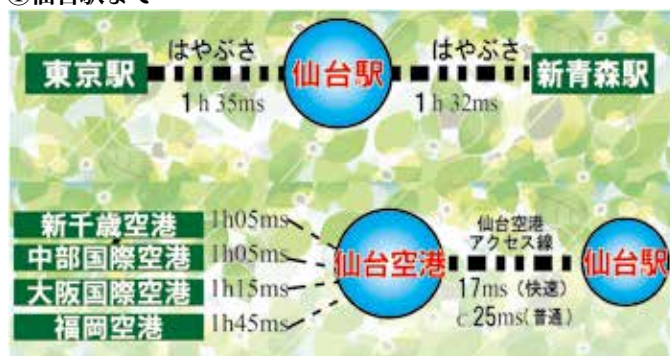
会 場：宮城教育大学青葉山キャンパス
〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻青葉149
会 期：2025年6月21日(土)・22日(日)
愛 称：現在募集中、ステキな愛称をご応募ください。
お待ちしております。
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

実行委員会

委員長：渡会 純一（東北福祉大学）
事務局長：原田 博之（宮城教育大学）
委員：石原 慎司（秋田大学）
小山 和彦（宮城学院女子大学）
佐藤 和貴（高崎健康福祉大学）
橋本 智明（仙台大学）
日比野裕幸（宮城教育大学）（予定）
水戸 博道（明治学院大学）
渡辺 修身（山形大学）

アクセス：

①仙台駅まで



②JR仙台駅から

仙台市営地下鉄東西線「八木山動物公園」行「青葉山」駅
下車（9分）「北1出口」から徒歩約9分（650m）

2024年度役員・委員等一覧

会 長：藤原 嘉文 副 会 長：石原 慎司、吉田 秀文 事 務 局 長：宮本賢二郎 財 務 局 長：小川 有紀 理 事：豊田 典子（事務局担当） 三島 郁（財務局担当） 大竹 紀子（総務担当） 深井 尚子（総務担当） 監事：橋本 智明 内山 尚美 会長諮問会議： 安藤 政輝 小西 潤子 後藤 丹 佐々木正利 参与：小野 亮祐 杉江 淑子 中村 隆夫 デザイン室： 室長 奥 忍	編集委員会： 委員長 小川 容子 副委員長 尾見 敦子 委員 稲木 真司 酒井 勇也 曾田 裕司 田中 宏明 田中 昌司 中畑 淳 助成コンサート委員会： 委員長 小川 有紀 副委員長 大竹 紀子 委員 小島 千か 寺内 大輔 長谷川正規 吉田 秀文 著作権ワーキング： 代表 福本 康之 委員 近藤 晶子 酒井 勇也 高橋 豊	会員情報管理システム構築ワーキング： 代表 小野 亮祐 委員 小川 有紀 杉江 淑子 寺内 大輔 豊田 典子 三島 郁 宮本賢二郎 渡会 純一 選挙管理委員会： 委員長 牛渡 克之 岡 ひろみ 佐藤 薫 参事：(HP) 近藤 晶子 (D室) 中村 公俊 (J-STAGE) 長山 弘 (庶務) 似内裕美子 松井 萌 スタッフ (事務局・D室) 坪田 晋輔 (財務) 森山 貴子
--	---	---

編集後記

諸般の事情により発行予定日より1ヵ月遅れて、ようやく2024年度第1号のニューズレターをお届けすることができるようになりました。今号は、山梨大学で举行された「バックスの宴」大会へ参加された方々からの寄稿をはじめ、総会でご承認いただいた各事業報告等についてご案内しています。再度ご確認くださいませようお願いします。また、2024年度の役員、委員等の改選に伴い、今年7月より新体制でスタートしました。皆さまのご要望に応えられるよう尽力してまいります。どうぞ、よろしくお願いします。

昨今の異常気象や地震など自然災害が気になるところです。皆様の安全とご健康を念じております。 (吉田 秀文)